

哺乳類

- ▶ 耳納山地の奥山から山麓では、ニホンジカやニホンザルのほか、里地里山環境を好むノウサギ、キツネなど、山間部から平坦部の広い地域では、タヌキやイノシシのほか、外来生物のアライグマなどが生息しています。
- ▶ 市内には、手入れされなくなった樹林や耕作地が見られますが、こうした場所に野生動物が侵入し、動物と人間との距離が近くなることで農業被害など様々な問題が起きてしまいます。
- ▶ ニホンジカによる生態系への被害は全国的に深刻です。ニホンジカが多い地域では、林床の植物が食べられてなくなり、土壌が流出したりするなどの被害が起きている。今のところ、市内の林床の植物は健全な状態が保たれていますが、今後増加する可能性もあるため、十分に注意していくことが重要です。
- ▶ アライグマは、法律で特定外来生物に指定されています。農業被害、在来生物の捕食などの生態系被害、家屋侵入などの生活被害が起きているほか、人獣共通感染症を含む病原体を媒介することから、積極的に防除に取り組む必要があります。



生きもの主な生息環境を表示しています。



「カヤ」にすむ小さなねずみ

山間の棚田や平坦部の水田のまわり、ため池のほとり、河川敷に広がるススキやチガヤの草地には、地上1mほどの高さに球状の巣があります。日本で一番小さなネズミ、カヤネズミの巣です。イネ科の草は「カヤ」といい、カヤにすむネズミだから、カヤネズミです。すみかであるイネ科草地は、開発、河川の護岸工事などによって減少しているうえ、維持するためには草刈りなど適度な手入れが必要です。市内に残されたカヤネズミの貴重な生息地を見守っていききたいものです。



カヤネズミの巣

鳥類

- ▶ 山間の溪流では、カワガラスやキセキレイなど、溪流から平坦部を流れる河川では、サギ類、シギ・チドリ類、カワセミなどが見られます。主に水辺にすむ昆虫、甲殻類、貝類、小魚などを餌としていることから、このような水辺の鳥の存在は、餌となる水辺の小動物を育む豊かな河川環境があることを示しています。また、河川やため池では、カイツブリや冬に北方から渡来する冬鳥のカモ類が羽を休めている姿が見られます。
- ▶ 農耕地では、水田のカエル類を餌とするサギ類、地上の昆虫類や草の種子などを餌とするツグミ、ホオジロ、カラス類などが見られます。食べられた植物の種子は、不消化物として糞とともに排泄され、離れた場所に散布されます。
- ▶ 樹林では、春に南方から日本に渡来する夏鳥のキビタキやオオルリ、果実やドングリなどを食べるアオバトやカケス、樹洞に巣を作りヒナを育てるフクロウ、キツキ類、カラ類などが見られます。このほか、福岡県内では分布が局地的で生息数も少ない猛禽類のクマタカが耳納山地の奥山から山麓にかけて見られます。こうした生態系の頂点に位置する種がいるということは、餌となるヘビやウサギなどの動物を含めた様々な生きものを育む豊かな生態系が築かれていることを示しています。



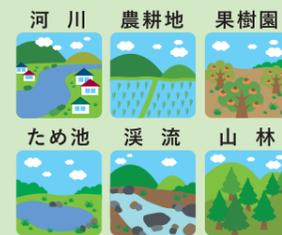
人の生活とサギ類のコロニー

野鳥には、繁殖するときにだけ群れを作るものがあり、このような群れをコロニーと呼び、サギ類やカワウが知られています。かつてはこのようなコロニーが川の中州や原野などに作られていましたが、人間が河川改修や宅地開発を進めた結果、次第に適した場所が少なくなってきたと言われていました。市内の市街地では、神社の境内に、サギ類のコロニーがあり夏の始め頃からアマサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギなどが集団で営巣しています。豊かな河川環境、水田環境を指標するサギ類ですが、近隣住民にとっては、糞や臭いなどの生活被害といった問題があります。鳥獣保護の観点からは、サギ類のような野鳥がコロニーを作る場所を確保することが必要ですが、住宅近くにあり被害が甚大な場合には、対策を講じることがあります。



アマサギの営巣

生きもの主な生息環境を表示しています。



ムササビ (リス科)



低地から山地の山林に生息。夜行性で、樹の上で活動し、飛膜を使って滑空します。飛膜を広げると座布団ほどの大きさで、樹洞に巣を作り、木の芽、葉、花、果実、種子を食べます。



カヤネズミ (ネズミ科)



河川敷や農地などの草地に生息。体重が7~14g程度の小さなネズミです。ススキなどのイネ科植物の葉を編んで、丸い巣をつくって子育てをします。草の種子や昆虫などを食べます。



アライグマ (アライグマ科)



アメリカ北部原産で、飼育個体の逃亡や放逐などにより野生化しました。雑食性で、魚などの小動物や果実などを食べます。水辺環境を好み、木登りや泳ぎが得意です。



サギ類 (サギ科)



池、川、水田などの水辺に生息。魚、カエル、エビなどを食べる鳥で、樹上に巣をつくります。市内ではコサギ、チュウサギ、ダイサギ、ゴイサギ、アマサギ、アオサギが確認されています。



カワセミ (カワセミ科)



川や池などの水中に飛び込み、鋭いくちばしで、魚、カエル、エビなどを捕まえて食べます。川の土手などに横穴を掘って巣を作るため、コンクリートで護岸工事がされていない環境が大切です。



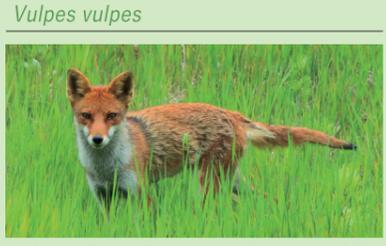
カササギ (カラス科)



九州北西部に多く、低地の樹林や農耕地に生息。樹上に丸い巣を作るほか、電柱など人工物に作ることもあります。北部九州の個体群は、16世紀末に持ち込まれたと言われています。



キツネ (イヌ科)



森林、草地、畑のある里山のような環境に生息。地面に穴を掘って巣をつくります。ネズミ、ウサギ、鳥、昆虫やアケビなどの果実も食べます。夜行性で、日没後や早朝によく活動します。



イノシシ (イノシシ科)



森林や農耕地などに生息。地面を掘り返し、植物の根、穀類、木の実、カエル、ミミズなどを食べます。雌は、春に2~8頭を出産します。農地を荒らすため農業被害が深刻です。



ニホンジカ (シカ科)



低地から山地の森林に生息。草木の枝葉などを食べます。雌は、春から夏に1頭を出産します。雄の立派な角は、毎年生え変わります。生態系被害や農林業被害が深刻な問題となっています。



カワガラス (ワガラス科)



山間の溪流や河川の上流に生息。体は茶色でずんぐりしています。水中を歩いたり潜ったりして、カワゲラなどの水生昆虫や小魚を捕まえて食べます。「ピィッ」という太い声で鳴きます。



キビタキ (ヒタキ科)



平地から山地の明るい林に生息する夏鳥。オスは眉と喉が黄色くカラフルなのに、メスは地味な暗緑色をしています。さえずり声美しく、昆虫やクモなどを食べます。



オオルリ (ヒタキ科)



平地から山地の沢沿いの林に生息する夏鳥。オスは背中が美しい青色ですが、メスは地味な茶褐色をしています。日本三鳴鳥のひとつで、木の頂部などで美しくさえずります。



うきは市の生きものを見つけてみよう!

うきは市の生きものを見つけてみよう!